



JA共済から今金消防署へ



救急車が贈られました

優秀な黒毛和種種雄牛生産に対して

表彰状が授与されました

3月23日今金町農協において、優秀な黒毛和種種雄牛「友里福秀」号の生産を行った白石地区の田中秀一さんに対し、一般社団法人ジェネティクス北海道の石村正志専務理事より表彰状と副賞が授与されました。

「友里福秀」号より排出された沢山の肥育牛（友里福秀の子供）が、大変良い枝肉成績であったため、このたび正式に種雄牛として選抜され、4月1日より全道を皮切りに販売されることになりました。今後の「友里福秀」号の活躍に期待するとともに、田中さんの日頃よりのご努力に心より敬意を表します。



親子三代にわたり、真摯に黒毛和種生産に取り組まれています。



表彰を受ける田中秀一さん（写真右）、石村専務理事

田中秀一さんが生産した友里福秀号のデータ

（一般社団法人ジェネティクス北海道発行「平成29年度黒毛和種種雄牛案内」より）

H黒-232 田尻系

友里福秀

ゆり ぶく ひで

- ◆母「きたゆり(父:北国7の8)」は2産目の去勢牛(父:安糸福)で格付A-5、BMS No.12、ローズ芯面積67cm²、枝肉重量562kgの産肉実績を持つ優良繁殖雌牛です。
- ◆気高系母体との交配において相性抜群(上物率94.4%、BMS No.7.4、枝肉重量493kg)。
- ◆資質、品位、骨締まりが良く、体上線の強い産子が生産されています。

血統

安糸福
No. 1081208.7

- 安福(総編) 1883.381.0
- しげみじ13の7 おく No. 03
- 糸福(大分) 229.84.0
- 第7系桜 No. 28
- 第3みち No. 1720.7
- 第7系桜 No. 14
- 北国7の8 No. 1322.25.7
- きたぐに7 No. 19
- ゆりぶく No. 1147.181.0

きたゆり
No. 1277.18.0.1

- 安福(総編) 1883.381.0
- しげみじ13の7 おく No. 03
- 糸福(大分) 229.84.0
- 第7系桜 No. 28
- 第3みち No. 1720.7
- 第7系桜 No. 14
- 北国7の8 No. 1322.25.7
- きたぐに7 No. 19
- ゆりぶく No. 1147.181.0

ゆりぶく
No. 1147.181.0

- 安福(総編) 1883.381.0
- しげみじ13の7 おく No. 03
- 糸福(大分) 229.84.0
- 第7系桜 No. 28
- 第3みち No. 1720.7
- 第7系桜 No. 14
- 北国7の8 No. 1322.25.7
- きたぐに7 No. 19
- ゆりぶく No. 1147.181.0

(株)北海道畜産公社道央事業所上川工場 平成28年7月1日上場 | 齢 27ヶ月齢

母の父: 菊福茂 × 母の祖父: 第5豊雄 肥育者: 中富良野町/愛澤 忠 氏
枝肉重量: 544kg ローズ芯面積: 63cm² BMS No. 11 格付: A-5

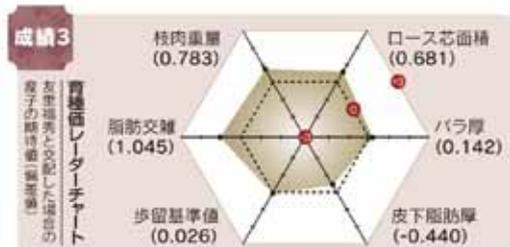
成績1

上物率(%)	90.3
精肉重量(kg)	488
ローズ芯面積(cm ²)	61
バラの厚さ(cm)	8.0
皮下脂肪の厚さ(cm)	2.9
歩留基準値(%)	74.1
BMS No.	7.0
肉の色・光沢	4.3
きめしまり	4.2
脂肪光沢質	5.0

現場後代検定成績 上物率及び平均値を去勢11頭齢20歳

成績2

枝肉重量	ローズ芯面積	バラの厚さ
母体値(kg) 正標準	母体値(cm ²) 正標準	母体値(cm) 正標準
88.577 0.930	15.087 0.922	0.861 0.909
皮下脂肪厚	歩留基準値	脂肪交雑率
母体値(cm) 正標準	母体値(%) 正標準	母体値 正標準
-0.132 0.931	1.611 0.931	2.565 0.937



J A 共済から今金消防署へ救急車が寄贈されました

◀ 装備の説明を受ける出席者の方々



◀ 車両内部の様子



3月16日、J A 共済連北海道本部が檜山広域行政組合今金消防署に救急車1台を寄贈しました。寄贈にあたっては当J Aの小田島親守組合長や外崎秀人町長ほか関係者が多数出席し、消防署内で受納式が執り行われました。

救急車は排気量2700CCの四輪駆動車で、除細動器付き心電図モニターをはじめとした高度救命資器材等が備えられています。J A 共済連では地域貢献の一環として1975年から全道の消防署に救急車を寄贈してきて、今回で198台目となりました。昨年は286件の救急出動があったということ、今回の救急車の導入により救急活動への更なる貢献が期待されます。

檜山北部広域ブロックリー部会 設立10周年

◀ 生産者と関係者で記念撮影



2月24日、檜山北部広域ブロックリー部会の設立10周年記念祝賀会が今金町民センターにおいて行われました。祝賀会は、生産者や来賓など90名余りが出席し過去の歴史を振り返りながら、10周年を祝い盛大なものとなりました。

同部会は平成18年に発足し、耕作者21戸・作付面積15haからスタートしました。3年後には販売額1億円を突破。その後、着実に産地としての生産力を高め平成27年には販売額2億円を達成されました。また、10年目となった平成28年には耕作者31戸・作付面積43haとなり、27年を上回る2億1900万円の販売額となりました。今後なお一層、高収益作物としての発展が期待されます。

水田活用の直接支払交付金に関する説明会が行われました



政策を理解し活用することの重要性がより増してきました

3月28～29日、3回にわたる水田活用の直接支払交付金に関する説明会が町民センターで行われました。説明会では、水田フル活用ビジョンの29年度に向けた取組や目標、具体的な活用方法や要件について話されました。今後を見据えた場合、所得を確保するため休耕田においては透排水性の改善など、生産性の向上に取り組むことがより重要となってきます。

各生産部会 総会ラッシュ！



3月16日に行われた今金町ミニトマト振興会通常総会の様子

多くの生産部会が2月末で年度末を迎えることから、3月は総会が毎日のように行われました。約20組織ある部会の総会では、議案審議のほかスキルアップのための講習会が数多く行われ、生産者の皆さんは春耕期に向けての準備を着々と進められていました。総会に限りませんが、講習で取り上げてほしい内容や疑問点等ありましたら、各部会事務局まで是非お知らせ下さい。

良質な米麦安定生産のために～講習会が開かれました～



北斗市会場の様子

3月15日、今金町農協において北海道米麦改良協会等主催による米麦生産講習会が行われました。講師には道南農試等が招かれ、安定生産に向けた講習が行われ、16日の北斗市会場では水稻直播栽培についての講習も行われました。自分の作業内容の点検と見直しをしっかりとし、基本技術を着実に行う、といった事も所得向上の為のポイントではないでしょうか。

町による担い手対策事業の交付式が行われました



外崎会長より交付金を授与される讃岐代表取締役(写真左)

3月30日、今金町役場において今金町地域担い手育成総合支援協議会(会長・外崎秀人町長)が行っている「担い手対策事業」の交付式が行われました。この事業は、農業後継者や新規就農者のほか法人化への支援を行っています。今回の交付式では29年度より法人化された「株式会社讃岐ファーム」代表取締役讃岐幹夫氏へ、同協議会外崎会長より法人設立への支援として100万円が交付されました。

J Aグループ通信

J Aグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

J A北海道大会決議事項の実践やその時々へのピックアップなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

J A北海道中央会



札幌市内で、高校卒業を控えた児童養護施設の生徒向けに、調理実習体験「おとなの食育」を開催しました。

J Aグループ北海道と「興正こども家庭支援センター」共催のこの取り組みは、高校卒業後、施設から巣立つ生徒に規則正しく健康的な食生活を送ってほしいという趣旨で実施しています。

札幌消費者協会「札幌ポトフの会」吉田講師からの「食」や「栄養」に関する座学、乳製品を使った調理実習体験に参加した生徒は「自分で作ると美味しい、今後もしっかり自炊したい」と笑顔で話してくれました。



J A北海道信連



3月に札幌駅前通地下歩行空間でJ AバンクPRイベントを行いました。ドローン貯キャンペーン当選者の発表や冬季アジア大会銅メダリストのカーリング日本代表『ロコ・ソラーレ』の本橋選手・吉田（知那美）選手によるトークショー、サイン色紙等の当たるクイズを行いました。また来場者のSNSにJ Aバンクポスターの写真を投稿してもらおう等J AバンクのPRに取組みました。



ホクレン



ホクレンは、新たな販路開拓に向け国内の食品に携わるバイヤーを対象にした「第11回J Aグループ国産農畜産物商談会」(3月7、8日開催、J A全農など主催)に出展しました。てんさい糖や乳製品、北海道米、小袋豆などを幅広く紹介したほか、新たに商品化した「ゆめびりかの乾燥玄米入りグラノーラ」などを試食提供し、北海道の安全で安心な農畜産物や加工食品の魅力を伝えました。



J A共済連北海道



J A共済連は、国立がん研究センターと「がん」に関する情報提供について包括連携協定を締結しています。世界各国で啓発行事が行われた「世界がんデー(2月4日)」に合わせ、チラシや告知資料を作成し、組合員や地域の皆さまに「がん」の正しい知識など情報提供すると共に、「がん共済」「医療共済」の推進活動にも活用します。

※この取組みについてはホームページにも掲載しております。



J A北海道厚生連



旭川厚生病院で「土曜ドック」を！旭川厚生病院では、男性の方を対象として、隔週土曜日に人間ドックを実施しています。午前中に全ての検査が終了し、検査結果は受診日から1週間ほどお届けします。前立腺がんや肺ドックなどのオプション検査も可能です。

随時予約を受け付けておりますのでお電話でお問い合わせください。

※完全予約制

(TEL)0166-33-7171 (内)2146・2198

平成 29 年に特に注意を要する病害虫

北海道病害虫防除所 HP より

(1) あぶらな科野菜のコナガ

あぶらな科野菜の重要害虫であるコナガは、平成 26 年以降に道内で採取された個体から、シアミド系薬剤の抵抗性遺伝子保持個体が確認されており、生産現場からも、シアミド系薬剤によるコナガの防除効果が当初よりも低下しているとの指摘がなされています。コナガは飛来性害虫であり、道内では露地での越冬が困難とされますが、抵抗性遺伝子を保持した個体が施設内などで越冬し、防除効果の低下が継続することを懸念する地域もありました。そのため、平成 28 年に、これらの地域で捕獲されたコナガ成虫を対象に、シアミド系薬剤抵抗性遺伝子の保持割合を調査しました。

その結果、春季の抵抗性遺伝子保持割合は、道南、道央、道東の複数地点における過去 2 カ年の春季調査結果とほぼ同レベルで、栽培期間の初期からシアミド系薬剤の防除効果が低下しているとは考えられませんでした。一方、シアミド系薬剤を複数回使用した地点において夏季に実施した検定では、使用履歴の少ない他地点と比較して、抵抗性遺伝子保持割合が高まっており、一般ほ場においても、シアミド系薬剤の使用によって栽培期間途中で同系統薬剤による防除効果が低下していることが示唆されました。コナガが施設内で越冬している懸念のある地域においても、春季の抵抗性遺伝子保持割合は低かったことから、シアミド系薬剤による防除効果は、春季の成虫飛来以降の同系統薬剤に対する遭遇頻度に応じて変わるものと考えられます。そのため、あぶらな科野菜の防除にあたって、シアミド系薬剤を使用する場合は、地域を問わず、複数系統の薬剤を用いてローテーション防除を実施しましょう。また、散布後の効果を確認し、効果の低下が認められた場合はすみやかに他系統薬剤による防除を実施しましょう。使用に当たっては処理方法を遵守しましょう。



写真 キャベツの葉を食害しているコナガの幼虫（左）、成虫（右）

（中央農試 岩崎 原図）

シアミド系薬剤(プレバソンフロアブル5、フェニックス顆粒水和剤等)を使うにあたっては

- ①連用は避ける
- ②防除を実施した後、効果の確認に努め、防除効果が低いと判断された場合は、他系統薬剤による追加防除の実施を検討する
- ③灌注剤、莖葉散布剤としての使用時には、所定の希釈倍数、処理量を遵守する



今回のテーマは

分娩について

酪農畜産現場において、お産は一大イベントです。子牛生産にとって大きなリスクが生じるポイントであり、乳牛においては乳生産のスタートになる重要なものです。いかに事故なく、順調にクリアできるかにより、その後の子牛の成長、親牛の乳生産・早期の妊娠へつながるのです。

お産での事故をいかに減少させるかがポイントです

平成 28 年度今金町では、胎子死（死産）100 件、難産に関しては 120 件発生しています。北海道全体の子牛死亡事故のうち、60% 近くが胎子死であるというデータもあります。つまり、お産での事故をいかに減少させるかが、子牛の死亡事故低下には最重要だと言えるのです。それほど重要なので、いくら注意しても、しすぎることはありません。人でも同じですが、お産の軽さ・重さやその状況は毎回異なります。こういった事こそ基本が大切です。何度も聞いたことのある内容だと思いますが、陣痛から娩出までの経過を細かく確認します。

陣痛から娩出まで

- ①陣痛開始から破水まで 2～6 時間
- ②1 時間に 12～24 回の陣痛があり、次第に間隔は狭まる
- ③子宮筋の収縮運動により下胎向（仰向け）から回転して上胎向（うつ伏せ）になり産道を進む
- ④子宮内圧の上昇とホルモンの影響により、子宮頸管は次第に拡張していく
- ⑤腹筋を使った腹圧を伴う陣痛により第 1 次破水が起こる
※腔内で起きることもあり尿膜が現れてから破水までは短時間で見逃すことも多い
- ⑥破水直後から 30 分後には羊膜が露出する
- ⑦露出直後から羊膜内には胎子の足先が見えることから足胞と呼ばれる
※足胞が現れてから胎子娩出まで 30 分～2 時間以上と牛によって大きく異なる。経産牛で 1 時間、初産牛では 2 時間は介助せず待つべきである。

早すぎる介助は避けましょう。分娩異常のときは、冷静に適切な処置を

基本的に正常であれば、お産はいかに待つことができるかということが大切です。難産の原因として多くある産道が狭い・胎子が大きいといったものは、早すぎる介助といった人為的なものであることが少なくありません。

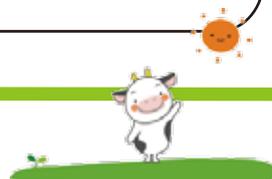
【分娩異常の判断基準】

- ①お産の始まりに多くの出血が見られる
- ②陣痛開始後 6 時間経過しても破水しない
- ③第 1 次破水後 1 時間経過しても足胞が現れない
- ④足胞出現後初産で 2 時間、経産で 1 時間経過しても胎子が娩出されない
- ⑤陣痛間隔が 5 分以上に延長する、あるいは、30 分以上ほとんど分娩の進行がない

こういった異常や、普段経験しているいつものお産と何かが違うと感じたときは、獣医師や経験豊富な方に助けを求めてください。難産と依頼を受け、往診すると夫婦喧嘩しているという状況に出会うことはよくあります。慌てず、焦らず、落ち着くことが大切です。少しでも冷静になり、適切な処置をすることを心がけましょう。

文：道南NOSA | 今金家畜診療所 田淵完昌

※このコーナーでは、皆さんからの疑問・質問を大募集中です！
取り上げて欲しいテーマ等ありましたら、ぜひ農業経営課までご連絡下さい。



畔塗り機 **New!** レンタル始めました!

本年より、コントラクター事業において新しいレンタル用畔塗り機を導入いたしました。水田の整備に是非ご活用ください。

導入台数	畔塗り機 (コバシ スーパーガイア XRV871T-3L) 1台 畔塗り機 (ニプロ リターンシリーズ LZR353NJC-3S) 2台
機械性能	スーパーガイア XRV871T-3L 対応トラクター (48ps~97ps) リターンシリーズ LZR353NJC-3S 対応トラクター (34ps~60ps)
貸付条件	1. 機械貸出の受付は農業経営課、受渡は車両課 (整備工場) とする。 2. 消耗による破損等を除いた原状復帰への経費は利用者の負担とする。 3. 病害虫被害防止対策 (転作田利用の場合、シストセンチュウ対策) として使用後洗浄し返還するが、洗浄をしていない場合は洗浄料として別途5,000円 (税抜) を徴収する。 4. 利用・運搬等機械の利用で発生した事故等の責任の一切は利用者が負う。 5. その他についてはJA、利用者協議による。
貸出料金	XRV871T-3L 25,000円/半日 (税抜) LZR353NJC-3S 15,000円/半日 (税抜)



※4月中旬頃から貸出し開始予定となっております。

【お問合せ先】 農業経営課 佐薙 (さなぎ) Tel 82-0212

▶退職にあたり謝辞を述べる阿部睦子さん



略歴 昭和32年1月生まれ。昭和50年入組。
昭和50年より現在の店舗購買課に勤務
平成5年店舗購買課係長

阿部睦子

平成29年3月31日付け退職

になりました

永年にわたりお世話

組合員の皆様